

No	感染症(PT)	出典	概要
44	HIV	Lancet 2007; 369: 623-625	2006年末までに台湾CDCに13702名のHIV-1/AIDS感染者が報告された。2003年以降、HIV-1/AIDS感染生存者は急増し、台湾のHIV-1/AIDS感染者数は約3万人と推測され、台湾の感染率(2300万人中3万人; 1/767)は中国(13億人中65万人; 1/2000)よりも高い可能性が示された。リスク要因分析によると、静注薬物使用者の感染率は2005年には72.4%(2461/3399)であった。また垂直感染は2006年末までに19例が確定された。
45	HIV	ProMED-mail20070215.0569	カザフスタン南部において、新たにHIV感染症例が記録され、91例(小児)に増加した。地方病院の患者である0~5歳の小児である。このうちの8例は既に死亡した。また、そこで治療を受けた母親13例も感染した。原因として、汚染された血液の輸血や、器具やシリンジの再使用が考えられる。
46	HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113-120	20名の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造された血液凝固第IX因子の投与を受けてから1~2年後にHIV-1に感染していると診断された。血漿ドナーと血友病患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタイプBに感染したことが明らかとなった。
47	HIV	第81回日本感染症学会総会・学術講演会ポスターP26-1	これまで国内でのHIV-2感染症例はいずれの報告も外国籍患者であった。今回、日本人初のHIV-2感染症例を経験した。77歳男性で、36年前セネガルで輸血歴がある。2006年6月、気管支喘息発作で入院となり、入院時HIVスクリーニング検査(ELISA)でHIV抗体高値となった。その後、Western Blot法による確認検査により、HIV-1抗体陰性HIV-2抗体陽性となった。遺伝子解析の結果、HIV-2サブタイプAに属し、セネガル株(60415K株)に最も近縁であった。
48	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
49	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界的にも感染例の少ないHIV2型に日本人が初めて感染したことが4日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。現地での輸血が感染原因とみられる。
50	HTLV	American Society of Hematology 2007年12月8-11日	1999年1月~2006年12月に長崎で献血を行った初回献血者の年齢別、出生年別および期間別HTLV-1血清陽性率の傾向分析を行った。血清陽性率は年齢が高くなるにつれ有意に増加した。また1987~1990年に生まれた献血者では1985~1986年に生まれた献血者と比較して有意に低かった。ウイルスキャリアの母親の授乳を避ける事を指導した県の対応が陽性率の低下に貢献していることが示された。
51	インフルエンザ	CDC INFLUENZA (FLU) 2006年12月6日	ブタインフルエンザに関するQ&A。ブタインフルエンザはA型インフルエンザであり、ブタにおいてインフルエンザのアウトブレイクを引き起こす。通常、ヒトには感染しないが、散発的にヒトでの感染が発生する。ここ数年間ではCDCは平均して年に1例のヒト陽性患者からのブタインフルエンザ分離株に関する報告を受け取っている。ブタと直接接触するヒト(例えば、養豚業者)で発生している。ヒトからヒトへ広がった例は稀である。
52	インフルエンザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化することが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトの α -2,6シアル酸からトリの α -2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、 α -2,6および α -2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。
53	インフルエンザ	Sioux City Journal Online	米国アイオワ州東部の住民1名がブタインフルエンザと確定診断された。患者は入院しておらず、回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はない。
54	鳥インフルエンザ	Ann N Y Acad Sci 2006; 1081: 171-173	タイ南部で自然感染した日本ウズラの卵白と尿膜液混合液を含む卵の内容物と、卵管からトリインフルエンザウイルスが回収された。発育鶏卵の絨毛尿膜囊接種によりウイルスを分離し、rPCRによりH5N1亜型インフルエンザウイルスと確定した。またウイルス抗原は複数の組織の実質で検出された。ウイルス抗原が全身に存在したことからウイルス血症の段階であると考えられた。アウトブレイク地域からの卵の移動や卵の消費によるウイルス汚染や拡大に対し安全対策をとる必要がある。